

2020 年度 精神看護学セミナー[令和 3 年2月11日(木・祝)] レポート

これまで大学内で行ってきた精神看護学セミナーですが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大に配慮し、Zoom を使用したオンラインにて開催いたしました。テーマは「地域での生活を支える“わが・ワザ・WAZA・技”—精神科訪問看護ステーションの実践より—」とし、4名のシンポジストにご自身の修士論文で得た知見をご発表いただきました。Zoom での開催は初の試みでしたが、県内外から45名の方々にご参加いただきました。

第1部では安保淳子さん(福島県立医科大学附属病院)より『訪問看護師さんが実践しているボーダーライン患者さんへのアプローチ方法』、藤井美佐恵さん(訪問看護ステーションのびのび)より『幻覚妄想の世界と現実の世界を行き来している方々の地域生活支援法』といったタイトルでお話いただきました。ディスカッションでは当事者とご家族とが語れる場を作ること、長いスパンで待つ姿勢も大切であること、病棟での活かし方(振り回される役割も必要になるのではないか)などが話し合われました。

第2部では地神由加里さん(訪問看護ステーションなごみ)より『コンコダンス・スキルを訪問看護で活用してみました』、坪井美恵子さん(防衛医科大学校医学教育部看護科)より『“関わらないで下さい”と言われながら始まる訪問～アウトリーチの実践より～』といったタイトルでお話いただきました。ディスカッションでは拒否を前提としながらもチームで試行錯誤し関わり続ける方法、地域の方を巻き込みながらの関わり方、コンコダンス・スキルの実践に向けた工夫点などが話し合われました。

全体としては当事者を「生活する人」と捉え、日常生活上の現実的なところと一緒に取り組む姿勢、一人の人として向き合う姿勢、本人の主体性を尊重し思いに添う姿勢が共通の学びとして語られたように思います。

参加した方々からのアンケートでは「精神科に特化した関わりの姿勢、具体的な介入スキル、多くのヒントを示して頂き、これまでの向き合いかたの振り返りや今後の関わり方のイメージができ、明日から1歩踏み出す勇気を頂きました」、「今まで知りえなかった技や知識を知ることができました。少しでも実践に取り入れて行けたらと思います。」といったご感想が寄せられました。

今後も精神看護学セミナーでは新たな知見を参加者の皆様と共有できる機会を作っていきたいと思います。



セミナー前の
打ち合わせにて



セミナー後にも
参加者の皆様と
パチリ